

令和3年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和3年6月29日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 清水 恒広, 岡野 創造, 森 一樹, 半場 江利子, 松本 重雄,
位高 光司, 能見 伸八郎, 山本 みどり, 白須 正
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長, 長谷川管理担当部長, 菱田経営企画課長

1 開会

2 報告事項

(1) 令和2年度 財務諸表等（案）について

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 京北病院の固定資産の減損の兆候に関して、現時点で減損処理が不要であることは分かったが、今後どうしていくのか。将来的に黒字化は可能なのか。
 - 京北病院の赤字は続いているが、単年で概ね1億円までの赤字であり、今後の努力次第で挽回可能というのが監査法人の判断であると考えている。
 - 監事監査に当たり、同様の質問を行っている。将来的な黒字化を目指すという法人の意見を尊重したが、今後も赤字のままというわけにはいかない。
 - 現状のままでは良くないと思っており、今後、赤字を減少させた上で機能を維持していくのか、いずれは設置者である京都市とも協議が必要になると考えている。打つ手はまだあると思うので、この一年で上向きようしっかりと取り組んでいく。
- 京北病院は老健施設を併設していることに強みがある。老健施設を使ってもらいながら、病院において医療ニーズに対応してくことで、在宅復帰へスムーズに結び付けることができる。
 - 貴重な御意見であり、老健施設の活用をうまく図っていきたい。
- 今回の決算は努力された結果であると捉えている。もう少し後になると思うが、市内大規模病院や自治体病院同士で集まる機会もあろうかと思う。意見交換を密にして、見習うところがあれば参考にしたい。
 - 新型コロナへの対応に当たっては、各種の支援をいかに得るかも考える必要があるが、受入病院の役割によって条件が異なってくる。中等症以上の入院患者を受け入れている当院では支援が十分でないと感じているため、他病院の情報を取り入れ、参考にしていきたい。
- 職員はがんばっていると思うが、危機意識を持ってもらうことが重要である。「市立だから大丈夫」と考えていると赤字が続くことになるので、しっかりと指導や啓発をしてほしい。
 - 職員にはこれまでから法人の経営状況について伝えてきているが、総論で大きな金額等を言ってもなかなか伝わらない。診療科ごとの状況を示すなど、職員に身近で伝わりやすい取組を進めていく。
 - 大きい病院ほど舵取りが大変だが、がんばってほしい。

(2) 令和2年度 実績報告書（案）について

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- B評価はA評価となるよう努力いただいていると思うが、B評価が続いている項目は改善が難しいのか。
 - 改善の取組は続けている。業務運営の改善及び効率化に関する事項でB評価が続いているが、A評価に至る顕著な実績には至っていない。働き方改革の項目などは、本来A評価であってしかるべきだが、依然として超過勤務が発生していることも考慮した。
- 職員満足度がB評価であるが、これがA評価になれば素晴らしいと思う。あきらめずに取り組んでほしい。
 - 患者満足度を上げるためには、まずは職員満足度の向上が重要で、個々の職員が自分にできることを通して病院を支えているという意識を持つように伝えてきた。ハッピースマイルカード運動は職員から上がってきた取組であり、今はB評価だが良い提案はしっかりと表彰することで、職員の意識を高めていく。
- 今年度、臨床倫理の取組を新規項目として加えているが、特別な理由があるのか。
 - 例えば重症患者の治療中断の決定といった終末期医療に係る課題など、かねてから倫理に関わる問題は多かったことから、今回初めて項目として取り上げたものである。
- 臨床倫理に関心を寄せているのは良いことと思う。患者の自己決定領域は広がっており、意思決定は必ずしも病院の一角で決まるものではない。地域貢献にもつながるし、職員のマインドも変わっていくと思う。
 - 倫理に関しては、元々倫理コンサルテーションチーム（ECT）として活動しており、現場と話し合いながら解決を図ってきたが、6月に委員会組織を立ち上げ、より動きやすくなった。今後、ECTの活動報告を通じた周知や、外部への研修の実施なども検討していきたいと考えている。

(3) 監査報告

資料3に基づき、中島監事から令和2年度事業及び会計について、適切に行われたことを報告

3 閉会